



発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 狩野 紀昭氏 国際品質アカデミー (IAQ) 第一回 品質桂冠賞 (Quality Laureate) 受賞
- 2-私の提言 高等教育の質保証を品質管理の観点から考える
- 2-ルポルタージュ JSQC規格「TQMの指針」講習会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第430回事業所見学会ルポ / 研究助成募集要項 / JSQC選書34 / 教員公募
- 4-第52年度役員体制 / 第52年度役員役割分担表 / 2022年10月の入会者紹介 / 第52年度事業計画

## 狩野 紀昭氏 国際品質アカデミー (IAQ) 第一回 品質桂冠賞 (Quality Laureate) 受賞

技術士 安藤 之裕

本学会第30-31年度会長で、名誉会員である狩野紀昭氏（東京理科大学名誉教授）が、国際品質アカデミー (International Academy for Quality : IAQ) が創設した Quality Laureate : 品質桂冠賞の第一回受賞者として同賞を受賞されました。その授与式が2022年9月28日（水）に、IAQ年次総会の中で、（一財）日本科学技術連盟において執り行われました。当日は、狩野氏のご家族をはじめ、会場に参集されたメンバーに加えて、ライブ参加された国内外からの多くの方々による、盛大なお祝いとなりました。

本賞は、IAQの創設者の3名である石川馨博士、Dr. Walter E. Masing、及び Dr. Armand V. (Val) Feigenbaum のご功績を記念し、品質分野の専門家として、その貢献、及び業績が人々の



写真は現IAQ Chairman であるElizabeth Keim氏 (U.S.A) から、同賞を授与された狩野紀昭氏

模範となり、世界的に卓越した人物であると認められた方にのみ授与することを意図して創設されました。故 Dr. Armand V. (Val) Feigenbaum (Total Quality Controlの原著者) は、本賞とは、品質分野におけるノーベル賞に相当するものであると述べられています。

本賞の要件としては、第一に、独自理論を提唱されていること、第二に、品質の意義とその実用的な適用から新しい理論を発展させ、教育、コンサルティング、執筆、講演を通じて幅広く普及されていることとされています。その証として、本賞の受賞者は政府、教育機関、専門家協会、その他の団体から最高レベルの賞を多数受賞し、その卓越した業績・貢献が広く認められていることが求められます。

狩野氏は、数多くの受賞に加えて、デミング賞本賞、アメリカ品質協会 (ASQ) 名誉会員、更にヨーロッパの品質管理の分野で最高の賞であるEOQ George Borel Awardの3つの賞を受けられた世界で唯一の人物であり、まさに、最高レベルの賞を多数受賞という実績にふさわしいと認められました。

授賞式当日は数多くの狩野氏のご実績の中から、Greg Watson博士、飯塚悦功博士、Janak Mehta氏、安藤之裕から、狩野モデルとして有名な、魅力



的品質論、ANQの設立並びにその発展に対するご貢献、課題達成型QCストーリーの開発と普及、並びに多くの企業をデミング賞・デミング賞大賞受賞に導かれたご指導実績などが紹介されました。また、狩野氏からも受賞のご挨拶をいただきました。

それらの事前送付論文（日英）が次のIAQのホームページに掲載されていますので、ご関心のある方は、ご訪問ください。

<https://iaq.wildapricot.org/IAQ-Quality-Laureate>

注) 国際品質アカデミー (IAQ) は、1966年に、日米欧の品質組織の代表により、国際的に品質管理を促進するためのグローバル組織として設立されました。メンバーは世界の主要地域から招待され、現在では45以上の国を代表しています。

なお、現在のPresident は、佐々木眞一氏（日本科学技術連盟 理事長）です。

## ● 私の提言 ●

## 高等教育の質保証を品質管理の観点から考える

筑波大学 伊藤 誠



高等教育（筆者の関心は大学教育）における「質保証」の重要性が大学内外で指摘されるようになってきました。実際に、

筆者の所属する大学でも、教育の質保証、PDCA、マネジメント、といった用語を見たり聞いたりすることは日常的になりつつあります。最近では、教学マネジメントをしっかりとやれ、と言われるようになってきました。

高等教育の質保証のために日本国内で行われている取組は、日本品質管理学会（本会）で議論されてきた品質管理の考え方、方法論とは異なる独自の発展を

してきたように思えます。たとえば、高等教育の質保証という文脈では、質保証に内部、外部の違いがあり、内部質保証、外部質保証、という言い方をします。内部質保証については、(独)大学改革支援・学位授与機構のサイトに定義が示されていますが、これを見る限り、本会の定義する「品質保証」とはずいぶん考え方が異なるように筆者は感じます。

高等教育の質保証に、本会はいかに関わっていくべきでしょうか。日本の品質管理学は製造業を中心として発達してきたのは事実だと思いますが、他方で医療や、広くサービス一般の品質も議論されるようになってきています。日本の品質管理学において、高等教育がスコープの範囲外であるとは思えません。高等教育の品質管理に、本会の専門家が貢献で

きるところはたくさんあるようにおもいます。方法論の開発はもちろん重要です。品質管理の研究者としての本分はそこにあるのでしょうか。さらには、学術界の品質管理研究者が、自身の所属する高等教育機関において当事者として、高等教育の質の向上に取り組むことを積極的に行ってもよいのではないのでしょうか。品質管理研究者でなくても、教学マネジメントにかかわる担当教員が、職域会員として本会に参画し、TQMの考え方や方法論を高等教育の質の向上に活かしていくという道筋もありそうです。

「そんなの無理だよ、わかってんだろ」という声も聞こえてきそうです。他方で、いくつかの大学では、学長のリーダーシップのもと、改革に成功し、教育の質向上を実現しているようです。競争的資金獲得のためのやらされる改革にとどまらず、自主的なマネジメントを各教育機関・教育組織が活発に取り組んでいくことを期待していますし、私自身も所属組織でどう取り組むべきかを考えていくつもりです。

JSQC規格  
講習会  
レポートTQMの指針  
「組織能力の向上」

JSQC9番目の規格「TQMの指針」講習会が8月25日(木)にオンラインで開催された（参加者78名）。過半数が関東地方以外からの参加で、永田会長が開会挨拶で言及された通り「オンライン講習は多くの方が講習会に参加する機会を享受できる」メリットを強く感じた。講習会は原案作成委員会から委員長の安藤氏をはじめ、平林氏、光藤氏、中條氏、村川氏の豪華講師陣であった。講演で光藤氏から「躊躇すべき状況ながら本指針の制定を呼び掛けた」との話があり、制定に至るまでの各委員のご尽力に感謝したい。これまで同様のJSQC規格制定後に開催される初回の講習会では、原案作成委員会から複数の方が登壇し、活発な全体討論が行われた。従来の規格がTQMの活動要素の位置付けと言える内容に対し、永田会長から「TQMの指針は全体総括の規格である」との説明からも予想された通り、参加者の現状認識を踏まえた多くの質問が寄せら

れ時間いっぱい活発な議論が行われた。全体討論の「TQMの指針を有効活用し社内に浸透させるために他社ではどのような方策を取っているのか」の質問には、規格制定直後でもあり、残念ながら事例紹介までは至らなかった。他力本願ではあるが、活用事例が増えた後、「TQMの指針活用事例説明会」等の開催を期待したい。

一方、各質問に対する講師陣回答や意見に対し、参加者を巻き込んだ討論とはならなかった点が気になった。私だけかもしれないが全体の雰囲気が分からないオンラインの状況下、率直な意見を述べることを躊躇してしまう要因もあったかもしれない。今後もオンライン開催が続くと思われるが、如何にして会場開催同様の活発な全体討論を実現するかが課題と感じた。

これまで制定された規格の場合、教科書として引用し関係者で容易に共有できたが、本規格の共有の難しさを痛切に感じつつ、本講習会を皮切りに、本規格を各社が活用し、その結果を反映させる場を創出することで、規格の内容が深化していくことを期待したい。

五味 俊一（旭化成株）

## 第430回 事業所見学会 レポート

### (株)オカムラ中部支社

去る、2022年9月13日(火)に、株式会社オカムラ 中部支社（愛知県名古屋市）にて「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通じて、社会に貢献するミッションの実践」のテーマのもと開催され、8名が参加しました。

今回の見学では、オカムラ様で実現していくための「人が集う場の提供」「従業員の働きがいの追求」及びコロナ禍における先進的なオフィス環境「テーマ：つながる」に関する具体的な取組み・考え方・事例をオフィス見学、名古屋大学との共同研究を通じて体感しました。

見学では「みのるらぼ（MENNOLU LABO）」という働き方や働く場の実証実験に日々取組まれているオフィスを見学しました。その日の仕事の目的に応じて

選択できるワークスペース（コミュニケーションを取りやすくさせるリビング風スペース、一人で黙々と考えるスペースなど）や気分転換に立っても仕事ができる机、コンセントに影響を受けない電源（バッテリー活用）、気持ちのガサガサをなくすような観葉植物の配置など、「みのるらぼで働く笑顔になる」というありたい姿の取組みを数多く確認できました。

共同研究紹介では、「ニューノーマルの働き方から考えるワークプレイス」「ワークプレイスでの品質と成効性」というテーマで講演いただき、オフィスに求められる価値・品質の変化を学びました。

全体を通して参加者から非常に多くの質問があり、活発な意見交換が見られ、多くの刺激と気付きを持って帰られたと感じました。

最後に株式会社オカムラの皆様にはご多忙の中、充実した見学内容と丁寧な説明を提供いただきました事、また、コロナ禍で1年越しの実現となりました事をこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

星野 智憲（株）ジェイテクト

## 事務局からのお知らせ

### 第52年度研究助成募集要項

**趣 旨：**21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

**助成金額：**1件5万円 5件以内

**期 間：**1年間（第52年度：2022年10月～2023年9月）

**募集期間：**2022年12月～2023年3月末日

**詳 細：**<https://jsqc.org/category/news/jimukyoku/>

### 日本品質管理学会監修「JSQC選書34」好評発売中

#### ●JSQC選書34（190ページ）

書名：食の安全

HACCPの本質を理解してISO22000を使いこなす

著者：荒木 恵美子

判 型 等：四六判、並製本

価 格：定価1,980円（税込）

→ 学会員特典価格1,584円（税込）

申込方法：<https://jsqc.org/jsqcselection/>

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

## 教員公募

### 秋田県立大学システム科学技術学部 経営システム工学科

#### 1. 教授または准教授 1名

**研究分野** データ分析（ビッグデータ解析、計量分析、データマイニング）、統計科学（状態空間モデル、多変量解析、ベイズ理論）のいずれかの専門知識を有し、当学科の理念である「鳥瞰的視野と数理的かつ工学的な経営で地域発のイノベーションを実現」のための研究や教育、地域貢献に意欲を持って取り組める方

#### 2. 助教 1名

**研究分野** データサイエンス、情報システム・ネットワーク、デザイン思考のいずれかの専門知識を有し、当学科の理念である「鳥瞰的視野と数理的かつ工学的な経営で地域発のイノベーションを実現」のための研究や教育、地域貢献に意欲を持って取り組める方

**所 属** 秋田県立大学システム科学技術学部  
経営システム工学科

**任 期** 5年の任期制（再任回数に制限なし）

**着任時期** 2023年6月1日(木)以降できるだけ早い時期

**応募締切** 2023年1月31日(火)必着

**詳 細** 秋田県立大学 教員公募・職員募集  
<https://www.akita-pu.ac.jp/about/saiyo/>

第52年度役員体制決まる

会 長	永田 靖	早稲田大学
副会長	若林 宏之	デンソー
”	鈴木 知道	東京理科大学
理 事	安随 正巳	日本科学技術連盟
”	飯塚 裕保	積水化学工業
”	奥 展威	日本規格協会ソリューションズ
”	川村 大伸	名古屋工業大学
”	今野 勤	神戸学院大学
”	佐野 雅隆	拓殖大学
”	澤田 昌志	アイシン
”	高倉 宏	トヨタ自動車九州
”	高橋 勝彦	広島大学
”	中條 武志	中央大学
”	中村 浩一	デンソー
”	中村 元志	愛知製鋼
”	西 敏明	岡山商科大学
”	廣野 元久	リコー
”	松浦 峻	慶應義塾大学
”	森田 浩	大阪大学
”	森本 国浩	ダイハツ工業
”	安井 清一	東京理科大学
”	山田 秀	慶應義塾大学
”	山本 渉	慶應義塾大学
”	余語 英俊	愛知製鋼
”	渡辺 喜道	山梨大学
監 事	金子 雅明	東海大学
”	熊井 秀俊	元リコー
”	斉藤 忠	岡谷電機産業
顧 問	小原 好一	前田建設工業
”	二橋 岩雄	トヨタ自動車
”	棟近 雅彦	早稲田大学

第52年度役員役割分担表

総合企画	◎永田 若林 鈴木(知)
品質管理推進功労賞	◎永田 若林 鈴木(知)
品質誌在り方検討WG	◎[伊藤] 森田 永田 渡辺 [鈴木(秀)]
研究発表会実行委員会	◎鈴木(知)
JAQ	◎飯塚(裕)
庶務	◎佐野
庶務、選挙管理	◎佐野 西 中村(浩)
会員サービス・QC相談室	◎西 澤田
規定	◎奥
会計	◎安随
活動	◎永田 若林 安井
事業・広報	◎廣野 山本 澤田 高倉
研究開発	◎山田
学会誌編集	◎安井 川村 [伊藤]
JSQC選書特別	◎[飯塚(悦)]
東日本支部	◎鈴木(知)
中部支部	◎中村(元) 川村 余語
関西支部	◎森本 今野
西日本支部	◎高橋 高倉 西
管理技術部会	◎金子 [平林] [福丸]
ソフトウェア部会	◎[茨木] 渡辺
医療の質・安全部会	◎棟近
サービスエクセレンス／生産革新部会	◎[木内] 安井
標準	◎中條 山本
学術	◎山本 森田
論文誌編集	◎山本 森田
Total Quality Science 編集	◎森田 渡辺
最優秀論文賞／研究奨励賞	◎鈴木(知) 山本
品質技術賞	◎若林 安井
研究助成特別	◎川村
学会間交流	◎松浦 鈴木(知)
FMES・横幹	◎佐野 ・◎[下野]
国際(ANQ)	◎鈴木(知) 山田 松浦
安全・安心社会技術連携特別	◎[伊藤] 中條
TQE特別委員会	◎[鈴木(和)]

◎委員長、支部長、部会長 [ ]役員以外の方

2022年10月の入会者紹介

2022年10月24日の理事会において、下記の通り正会員4名、準会員3名、職域会員1名、賛助会員2社2口の入会が承認されました。

.....  
**(正会員4名)** ○栗原 慶太 (DMG森精機) ○小山 徳子 (古賀総合病院) ○安井 誠志 (豊田合成) ○小泉 良一 (住友金属鉱山)

.....  
**(準会員3名)** ○佐藤 光一・吉田 悠夏 (横浜国立大学) ○藤田 宗弘 (東京理科大学)

.....  
**(職域会員1名)** ○古田 修一(大和製罐)

.....  
**(賛助会員2社2口)** ○フソウ ○オークマ

名譽会員：22名

正 会 員：1657名

準 会 員：74名

職域会員：51名

賛助会員：154社226口

賛助職域会員：13名

公共会員：15口

一般社団法人 日本品質管理学会 第52年度事業計画

会 合 / 月	2022年 10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会		第52回 12日(土) オンライン												第53回 11日(土) 中部地区
研究発表会	本部・中部・関西							第131回 27日(土) 本部			第132回 中部	第133回 関西		
講演会	本部・中部・関西・西日本					第147回 東日本		第148回 中部	第149回 関西		第150回 東日本			
講習会	標準委員会	小集団改善活動の指針 3日(月)	新製品・新サービス開発管理の指針 14日(水)		○		○		○		○		○	
シンポジウム	本部・東日本・中部・関西						第178回 東日本		第179回 中部	第180回 関西		第181回 東日本		
クオリティーク	東 日 本	第131回 Web 6日(水)		第132回		第133回		第134回		第135回		第136回		
事業所見学会	本部・中部・関西・西日本				中部	東日本		東日本・関西	中部・西日本	関西				
QCサロン(関西)		第136回 11日(火)			○		○		○		○		○	
その他の行事		ANQ2022 北京 25-27 オンライン											ANQ2023 ホーチミン 16-20	
理 事 会	478回 24日(月)	479回 12日(土)	480回 15日(水)	481回 26日(水)		482回 23日(水)		483回 22日(月)		484回 27日(水)		485回 20日(水)	486回 26日(水)	487回 11日(土)
庶務委員会	19日(水)		8日(水)	18日(水)		15日(水)		15日(月)		19日(水)		13日(水)	20日(金)	
学術委員会	論文誌編集	3日(月)Web	17日(木)Web	14日(水)Web	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。